

深刻化する空き家問題：過去最高900万戸の衝撃



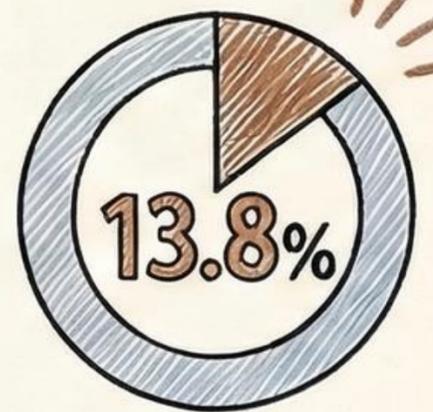
日本の空き家数は過去30年間で約2倍に増加し、2023年には900万戸、空き家率13.8%といずれも過去最高を記録しました。この背景には、人口減少や少子高齢化、都市部への一極集中といった深刻な社会構造の変化があり、地域コミュニティの維持を脅かす課題となっています。



数字で見る空き家の「過去最高」更新



空き家数
約900万戸



空き家率
総住宅数に占める割合も過去最高。供給過多鮮明。

空き家数推移(万戸)

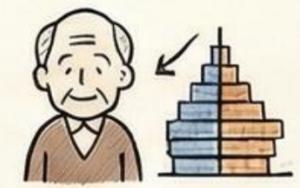


放置される「その他の住宅」の増加

賃貸・売却用を除いた、適切な管理がなされにくい放置空き家が深刻な課題。

なぜ増え続けるのか？人口減少・少子高齢化

なぜ増え続けるのか？
社会の構造的背景



居住者の死亡や施設入居により、適切な承継がなされない住宅が増加。

都市部への一極集中

若年層の都市部流出により、地方や郊外の古い実家が管理不全に陥る。



相続に伴う所有意識の希薄化

相続したものの遠方に居住している等の理由で、活用も解体もされないケースが多発。



秦野市・戸建て空き家の最新実態（令和6年度調査）

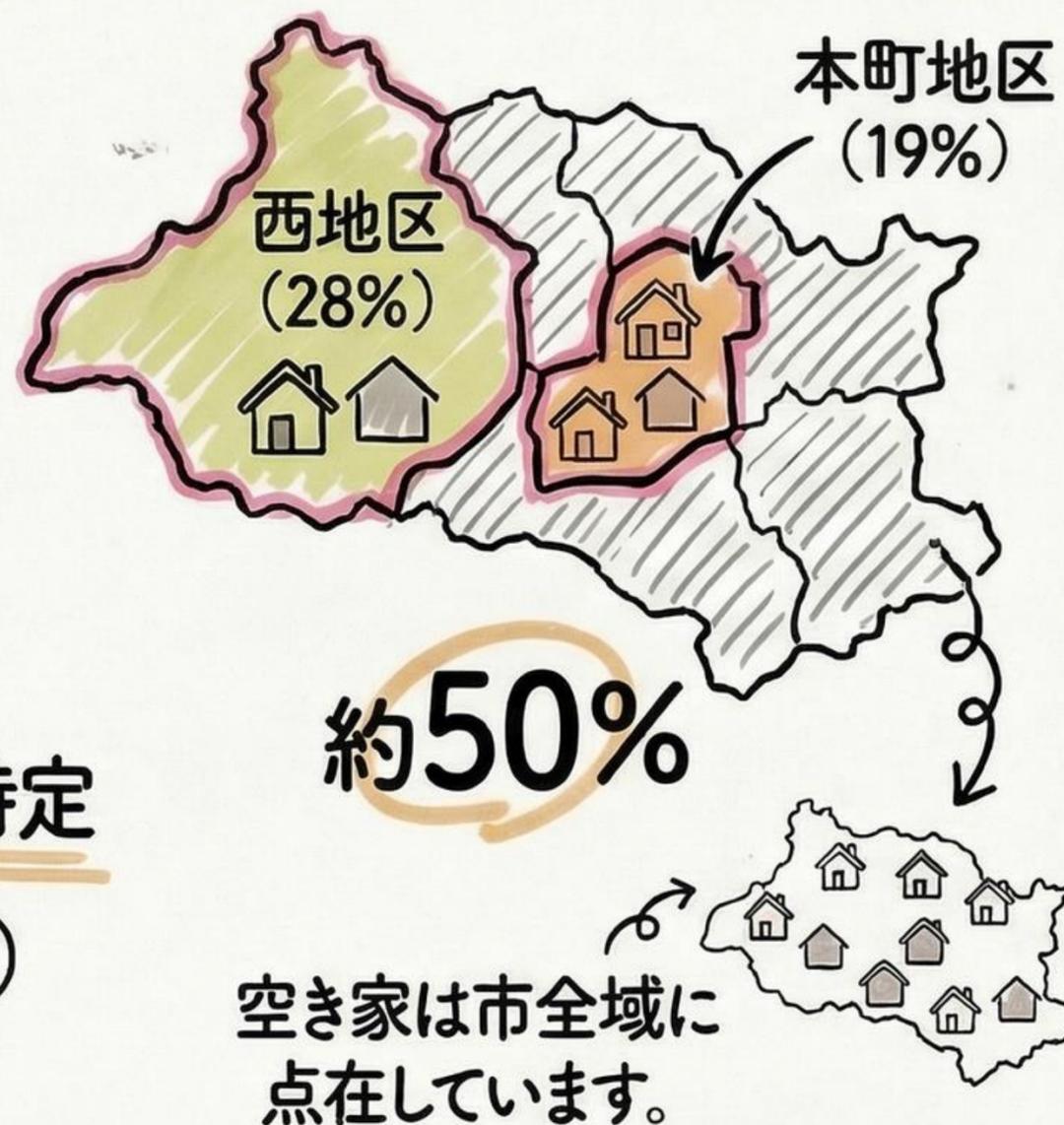
5年間で272戸の大幅増加



候補1,372戸



**西・本町地区に
全体の50%が集中**



秦野市の空き家問題：放置から「住まいの終活」へ

放置は損！法改正で「管理不全」なら増税のペナルティも。



2043年、4軒に1軒が空き家に

秦野市の空き家率は県内でも高く、今後「多死社会」の本格化で増加ペースはさらに加速します。



放置で固定資産税が「6倍」になるリスク

2023年の法改正により、管理不全と勧告されると住宅用地特例が解除され、税負担が大幅に増えます。



空き家の原因、第1位は「相続」



解体費がもったいない



家財が片付かない



先送りが、地域の防犯・防災リスクを高めています。



今すぐ始める「住まいの終活」

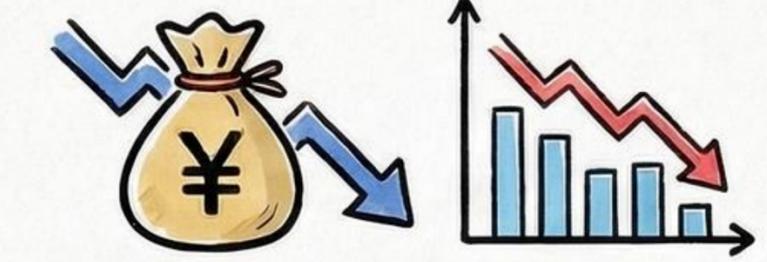
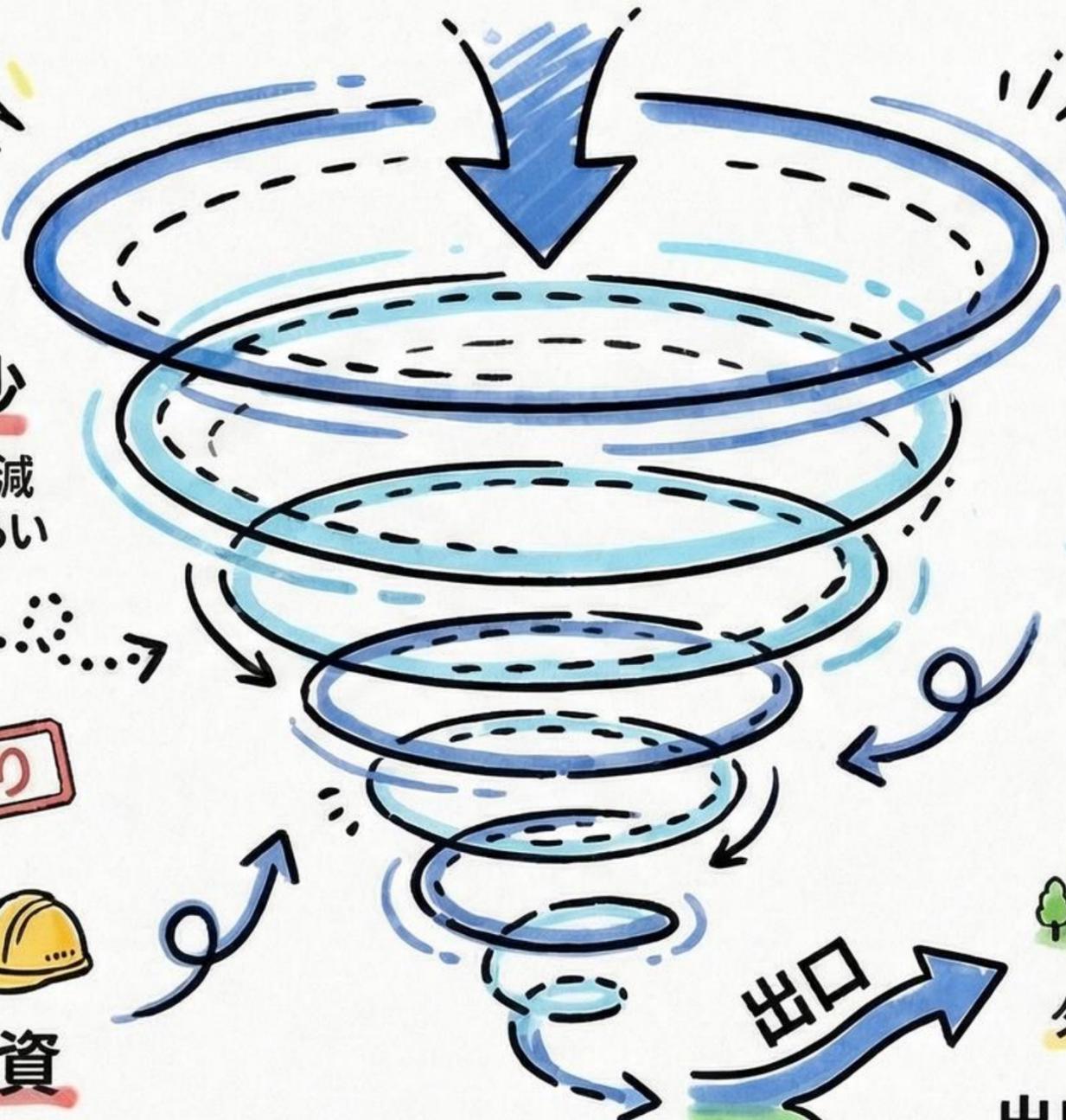


秦野市では専門家と連携したセミナーを開催中。



負の遺産にしないため、元気うちに将来の活用法を決めましょう。

水道危機の真実：人口減少が招く「経営の負のスパイラル」



止まらない「料金収入」の減少

2040年までに多くの自治体で2~3割の減収が予測され、経営基盤が根底から揺らいでいます。



削れない「固定費」の重圧

コストの6~7割が施設維持や借金返済。水の使用量が減っても、維持費は安くなりません。



上がる単価、先送りの投資

収支を合わせるために老朽化対策を先送りする「危うい経営」が常態化しています。



出口は「適正化」と「デジタル」

施設のダウンサイジング(減量化)と、AI・スマートメーターによる管理の効率化が不可欠です。

秦野の水道を守る：未来へつなぐ700kmのライフライン

総延長700km! 巨大な網を維持。

市内に張り巡らされた管路の老朽化に対し、長寿命化を図る広域的な補修を行っています。

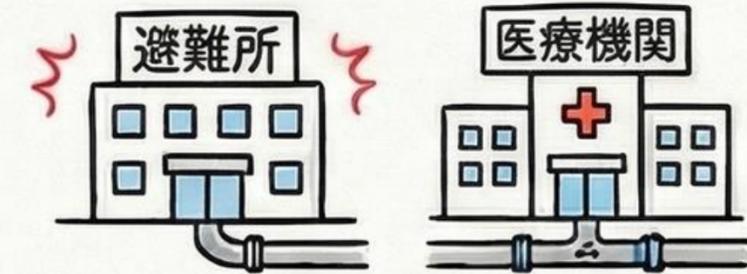


AIと衛星で 「見えない漏水」を検知。

調査員の目と耳に加え、最新のデジタル技術を活用して、漏水の早期発見とコスト削減を両立します。

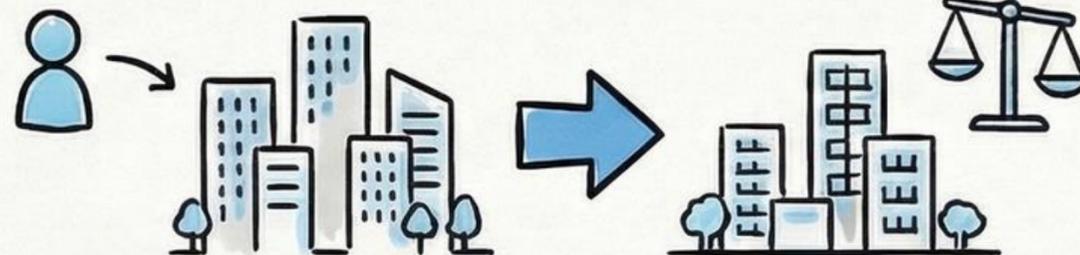


耐震化計画を 前倒しでスピードアップ。



能登半島地震を受け、避難所や医療機関などの重要施設へ送る管路を最優先で強化しています。

街に合わせた 「ダウンサイジング」。



将来の人口減少を見据え、水道施設を適切な規模に縮小・再編することで、経営の安定を図ります。

「空き家」の 水道トラブルにご用心!

給水管の凍結や破損は所有者の責任。近隣への水害を防ぐための適正管理を啓発しています。

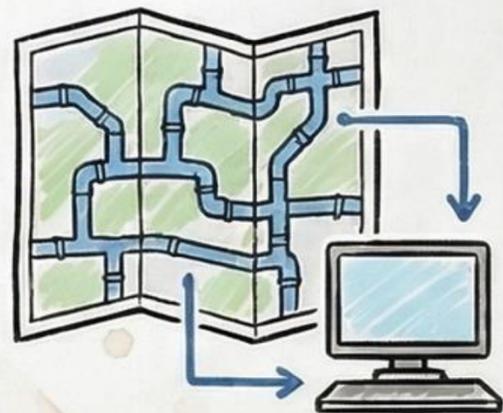


秦野市の水道DX：持続可能な水インフラへの挑戦

☆☆ 人口減少と施設老朽化に対応するため、デジタル技術（水道DX）を推進。
効率化とコスト削減、安定供給を目指す！

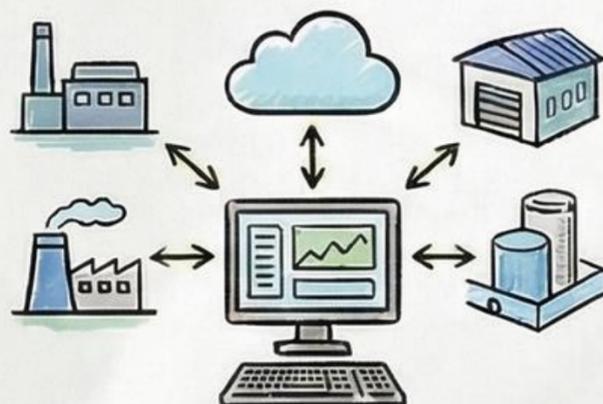
既に稼働中！ 「いま」を支えるデジタル技術

マッピングシステム (平成19年度導入)



水道管路の情報をデータ化し、複雑な網目状のインフラを効率的に管理。

遠方監視システム (令和2年度導入)



インターネットを通じて、各施設の運転状況をリアルタイムで把握・管理。



効率化を加速する 「これから」の新技术

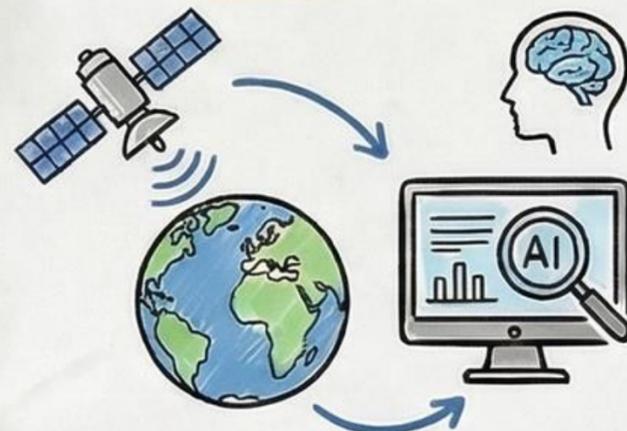


水道スマートメーター



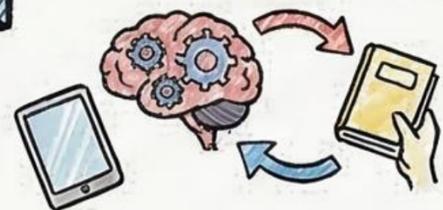
遠隔での自動検針を実現し、人手不足への対応と検針業務の効率化を目指す。

衛星画像・AIによる 漏水調査



最新の解析技術で漏水や劣化を早期診断し、修繕コストを大幅に抑制。

欧州で進む『アナログ回帰』の本質：デジタルと紙のハイブリッド再編



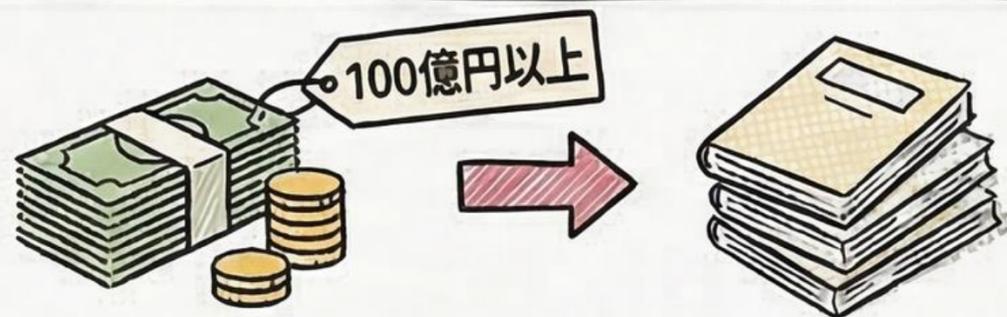
デジタルとアナログの『適材適所』こそが、これからの教育のスタンダード。

1 スウェーデンの読解力スコアが低下



国際調査 (PIRLS) で555点から544点へ低下し、政府は「学力危機のシグナル」と判断しました。

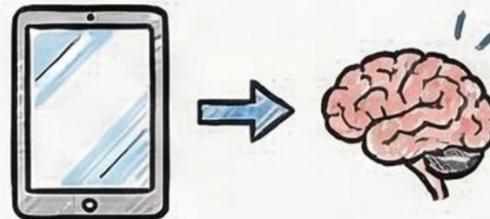
3 紙の教科書の再配布に100億円以上を投入



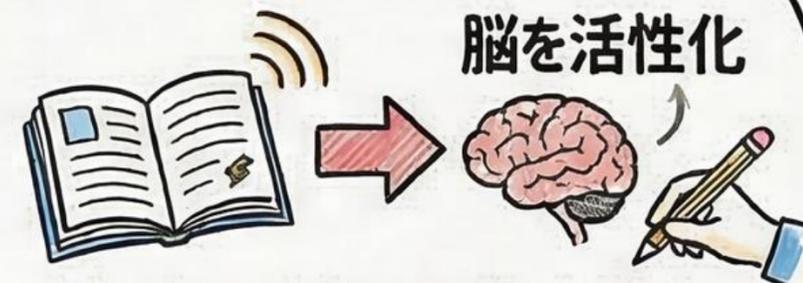
スウェーデンは低年齢層のデジタル義務化を撤廃し、基礎固めのために「紙と鉛筆」を再重視しています。



2 科学が証明する『スクリーン劣等効果』

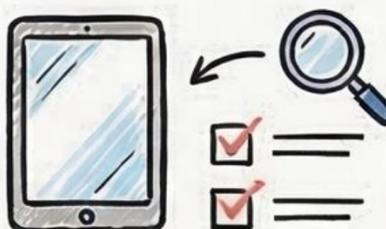


画面：低い定着率



紙：高い読解・記憶定着率、
手書きは脳を活性化

4 デジタルは『効率』、アナログは『思考』



デジタル：検索・個別ドリル
(効率)



アナログ：深い思考・記憶定着
(思考)

ハイブリッド化が進んでいます。

「デジタル×アナログ」で 拓く学びの未来

～NEXT GIGAの挑戦～

1. デジタルとアナログの 「最適バランス」



効率や共有は
デジタル

使い分け基準を確立

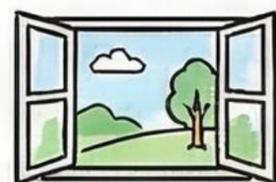


思考の深化や記述は
アナログ(紙・手書き)

2. 身体を守る 「30・20・20」ルール



20分



遠くを見る(20秒)



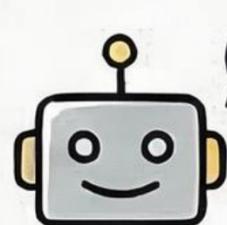
視力低下や
睡眠障害を防ぐ



習慣や家庭でのルール作りを徹底

デジタルとアナログの
「良いところ取り」による
ハイブリッド教育

3. 生成AIを 「思考のパートナー」に



ハルシネーション(嘘)を見抜く
ファクトチェック能力



適切な問いを立てる
プロンプト力を養います

4. 教職員の 「働き方改革」も加速



ICTマスター
によるサポート



校務の
デジタル化



先生が子供と向き合う
時間を最大化します



はだのっ子の未来を拓く! 「秦野らしい」教育のカタチ



ACTION ITEM

「本物」に触れる秦野ふるさと科

丹沢の自然や歴史を9年間一貫して学び、郷土への誇りと愛着を醸成します。



生きる力

地域が教室! 「寺子屋方式」の支援

学校運営協議会や地域ボランティア、大学と連携し、社会全体で子供を育てる体制を構築します。



AIドリルの効率性と、紙・手書きによる思考の深化を、発達段階に応じて最適に使い分けます。



デジタル依存を防ぎ健康を守る

夜間利用制限アプリの導入や「30・20・20」ルールの徹底で、デジタルの弊害から子供を守ります。

